

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2021年												2022年												2023年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 ~5日	2月 ~12日	2月 ~19日	2月 ~26日	3月 ~5日	3月 ~12日	3月 ~19日	
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	76	34	43	69	64	99	99	47	48	99	77	32	48	7	7	7	9	13	16 (1)	5	
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	29	41	37	62	88	90	30	53	40	44	45	81	47	15	7	7	8	14	15 (2)	7	
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	1	1	10	2	0	2	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	4	3	7	5	5	3	16	12	12	14	5	3	7	0	0	0	2	1	0	1	
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	35	12	25	20	32	22	26	19	13	20	18	11	15	3	3	1	3	3	4 (1)	1	
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	19	10	9	19	28	9	17	18	15	16	20	14	13	1	2	6	1	4	3 (1)	4	
腸炎ピブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	3	0	0	0	1	3	4	1	5	4	1	2	1	0	0	1	0	0	0	1	
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	5	7	3	2	2	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	4	0	7	2	0	0	1	0	0	0	1	2	14	3	4	1	3	3	2	1	1

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。
その他の1件は、アエロモナスでした。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和5年第11週(3月13日~3月19日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	6	結核	6			1		2	1	2
三類	0	発生なし	0							
四類	0	発生なし	0							
五類	8	梅毒	8	1				7		
新型コロナウイルス感染症	1,691	新型コロナウイルス感染症	1,691	189	117	227	86	693	62	317

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中市、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

■コメント

1 新型コロナウイルス感染症

第11週に693件の報告がありました。新規感染者数は減少傾向が続いています。基本的な感染予防対策を続けることが大切です。

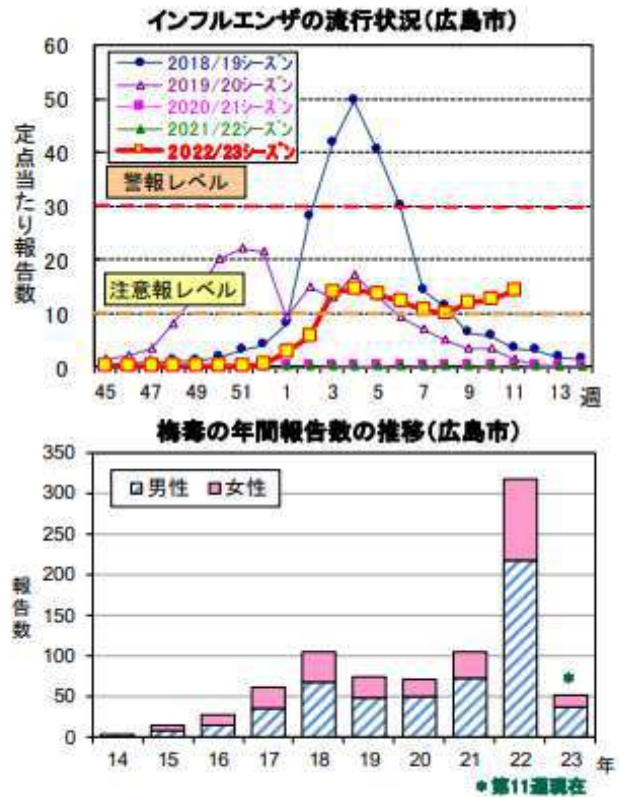
2 インフルエンザ

定点当たり14.11人の報告があり、増加傾向です。諸外国では、新型コロナウイルス感染症の発生以降、インフルエンザの流行が過去に類をみないタイミングで起こったり、今まで一峰性であった流行が二峰性となった地域もあり、今後の発生動向に注意が必要です。引き続き、感染予防対策を心がけましょう。

迅速診断キット検査結果(市内2か所の協力医療機関による)
 第11週 A型:117人、B型:1人

3 梅毒

今年の累計は52件となり、多い状況が続いています。今年、約3割を女性が占めており、2022年は100件の報告がありました。女性の感染者の増加に伴い、今後、先天梅毒(妊婦から胎盤を通して胎児に感染)が増加するのではないかと心配されています。心当たりや疑わしい症状がある場合は、早めに医療機関を受診しましょう。



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号
小児科	インフルエンザ	522	14.11	2.44	↑	小児科	流行性耳下腺炎	2	0.08	0.06	
	咽頭結膜熱	9	0.38	0.19			RSウイルス感染症	-	-	0.30	
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	0.33	1.49	↓	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	104	4.33	6.61	↑		流行性角結膜炎	-	-	0.30	
	水痘	4	0.17	0.16			細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	-	-	0.11		基幹	無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.14			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.06	
	突発性発しん	6	0.25	0.32			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	1	0.04	0.05			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.60	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	15	20歳代・推定感染地域: 国外、30歳代・推定感染地域: 国外
5	梅毒	7	52	40歳代・3人、50歳代・2人、60歳代・2人